

1. 第 8 回西日本地区研究会のご案内 (第 2 信)

第 8 回西日本地区研究会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。ぜひ、ご参加ください。

- ・日時 2017 年 12 月 2 日 (土) 13:30~17:15(~19:00)
- ・会場 名城大学校友会館 第一会議室 名古屋市天白区塩釜 1-501 Tel: 052-832-2525
- ・研究会 参加費
 - ・正会員、賛助会員、準会員 : 1,000 円
 - ・一般参加者(非学会員) : 2,000 円
- 情報交換会 参加費
 - ・会員・非会員とも : 4,000 円

*参加費は当日会場受付にて申し受けます。

13:00~ 受付

総合司会 学会理事 照屋行雄(神奈川大学/大学院 教授)

I 責任者挨拶

- 13:30~13:45 開会の言葉 学会副会長 藤江俊彦(千葉商科大学大学院 客員教授)
- 13:35~13:40 会長の挨拶 学会長 若杉 明(LEC 会計大学院 教授、経済学博士)
- 13:40~13:45 運営責任者 準備委員長 山田弥一氏(元大同大学 非常勤講師)

II 研究発表(各報告 30 分、質疑 10 分)

- 13:45~14:25 第 1 報告「小大教育連携の取り組みと課題」
小川真実氏(千葉大学大学院社会科学研究院 准教授)
- 14:25~15:05 第 2 報告「エアラインマーケティングにおけるイールドマネージメント」
古賀野 洋氏(日本経済大学神戸三宮キャンパス経済学部商学科 准教授)
- 15:05~15:45 第 3 報告「人的資源管理の新たな展開—企業の成長戦略と留学生の活用—」
川村 忠隆氏(日本経済大学神戸三宮キャンパス経済学部商学科 教授)

(15:45~16:00 インターミッション)

III 特別講演

- 16:00~17:00 特別講演「自動車の最先端技術—運転支援から自動運転へ—」
相馬 仁氏(名城大学理工学部交通機械工学科 教授)
- 17:00~17:15 閉会の辞 山田弥一氏(元大同大学 非常勤講師)

(移動 17:15~17:30)

IV 情報交換会

- 17:30~19:00 会場: レストラン「シャトー」(校友会館 1 階)
開会の挨拶(乾杯の音頭) 川村 忠隆氏(日本経済大学経済学部商学科 教授)
閉会の挨拶 山田弥一氏(元大同大学 非常勤講師)
- 19:00 大会終了

2. 特別研究プロジェクトの設置と研究メンバーへの参加案内

学会理事会では、この度若杉明会長のご提案で「企業不祥事に関する特別研究プロジェクト」を起ち上げることになりました。その設置の趣旨、研究の範囲、研究の方法および研究組織の編成は、下記のとおりです。

そこで、本研究プロジェクトへの参加意欲のある会員を数名募集いたしますので、設置の趣旨等をご一読・ご理解の上、2017年11月30日までに学会事務局までメールでご連絡ください。事務局のメールアドレスは、honbu09@jima.org です。

(1) 研究プロジェクト設置の趣旨

最近、日本を代表する大企業に憂うべき不祥事が発生し、膨大な赤字の計上、債務超過などが生じ、上場廃止、事業の身売りなどを余儀なくされています。このような状況が今後も続くなれば、我が国の企業の経営力や国際的信用は失墜し、日本の将来に暗雲が漂うことになるでしょう。大企業が抱えるこのような病根は、これを一日も早く徹底的に断ち切り、経営の健全化をはかることが今や喫緊の課題であると思います。経営管理に関する理論的・制度的研究に精励するわが経営管理学会にとって、不祥事関係企業に潜む経営、技術、人事などの諸問題を究明し、改善策を立て、これを世に問うことがわれわれに課された使命であると考えます。

(2) 研究領域の範囲

研究領域の範囲は、次のような論点を中心に、理論的・制度的に研究するとともに、個別的・実践的に調査分析する。

1) 人的関係

- ① 経営者の資質 ② 経営哲学・経営倫理 ③ 経営戦略・経営方針 ④ 経営組織の特性 ⑤ 意思決定の仕組み ⑥ 労使関係

2) 設備投資・研究開発関係

- ① 設備投資計画 ② M&A 計画 ③ 研究開発力(R&D)・技術力 ④ R&D 計画・投資 ⑤ R&D の管理

3) 情報力関係

- ① 情報収集力・活用力 ② M&A の関連情報 ③ 情報管理

4) 経理・ガバナンス関係

- ① 経理システムと経営者 ② 内部統制の整備状況 ③ 監査法人との関係 ④ コーポレート・ガバナンスの実情

(3) 調査研究の方法

研究の方法は、上記2で取り上げた論点を中心に各メンバーの関心に従い選定し、調査研究する。調査研究に当たっては、基本的に次の2つの方法が考えられるが、ここでは②の方法によって個別に研究計画を設計し、本研究プロジェクトをスタートさせることとする。

- ① 会社別に担当し、上記の論点について分析し、報告書を作成する。
- ② 上記の論点別に担当し、複数の会社を取り扱い、報告書を作成する。

(4) 研究組織の編成

学会会員の中から研究メンバーを選び、プロジェクト・チームを編成して、早期に調査研究活動を開始する。研究組織の編成は次のとおりとする。

- ① 学会会員から10名を定員として研究メンバーを選定する。その際、理事会での指名数名と公募数名、さらにJIMAからの参加2名ほどを加えた構成とする。
- ② 学会事務局をプロジェクト・チームの事務局とし、計画的・組織的に運営する。研究活動費(資料

収集費、調査旅費など)として予備費予算を使用する。

③ 中間報告および最終報告の公表は学会誌の『経営管理研究』にて行うが、研究メンバーの独自の展開による研究成果は、同誌に個人の研究論文として掲載することができることとする。

④ 研究活動の統一テーマは、「我が国を代表する大企業の不祥事をめぐる研究」と設定し、調査研究期間は向こう2年間とし、中間報告と最終報告に分けて成果の公表を行うものとする。

3. 学会誌『経営管理研究』第8号の原稿募集について

学会誌『経営管理研究』第8号への応募原稿を次のとおり募集いたします。応募希望の会員は、下欄の原稿募集要項に従って原稿を執筆し、本学会事務局までご提出下さい。

学会誌編集委員会

学会誌『経営管理研究』第8号の原稿募集要項

- 1 学会誌名称 『経営管理研究』(The Journal of Business Management) とする。
- 2 応募資格 原則として日本経営管理学会の会員でなければならない。
- 3 使用言語 原稿執筆で使用する言語は、日本語または英語とする。なお、日本語で執筆する場合は英文のタイトル、英語で執筆する場合は日本語のタイトルを併記すること。
- 4 応募要件 原稿は査読付論文、一般論文、研究ノートを集める。いずれの場合にも同一人による執筆原稿の応募は、単独論文(単著)に限り原則として機関誌発行毎に論文1件とする。
- 5 査読論文 査読付論文を希望する執筆者は、左上に査読付論文と明記すること。
- 6 掲載不可 学会誌の発行に係る諸事情により原稿掲載が不可もしくは困難な場合には、原稿の掲載を制限することがある。
- 7 原稿枚数 原稿の字数は、論文の種別によりそれぞれ次のとおりとする。
 - ① 査読付論文並びに研究論文については、400字詰め原稿用紙換算で図表を含めて25枚(10,000字)までとする。
 - ② 研究ノートについては、400字詰め原稿用紙換算で図表を含めて20枚(8,000字)までとする。
- 8 原稿校正 原稿は完全原稿で提出し、執筆者本人の校正は2回までとする。
- 9 配付部数 掲載原稿の執筆者には、発行された学会誌2冊を配付する。ただし、執筆論文の抜刷り希望の場合は実費とする。
- 10 提出期限 2018年3月末日必着とする。
ただし、査読付論文の提出期限は2018年2月16日(金)とする。
- 11 提出方法 応募原稿の提出は、ワードプロセッサによる横書き原稿で作成し、ハードコピー一部と電子媒体(FD、USBメモリー、CD-R等)一枚を送付するものとする。ただし、Eメールに添付する方法で提出することも認める。なお、送付に際しては、学会誌への応募原稿であることを封筒表面に朱記すること。
- 12 発行予定日 2018年7月1日
- 13 問合せ先 原稿の応募に関する問い合わせは、学会事務局を通じて学会誌編集委員会宛にお願いいたします。

学会事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-5 市ヶ谷法曹ビル607号

(一社) 日本経営管理協会内 E-mail: honbu09@jima.org

TEL. 03-3261-1145 FAX. 03-3261-3315

4. 文献紹介

野村康『社会科学の考え方』名古屋大学出版会、2017年。

千葉大学大学院社会科学研究院准教授 小川真実

本書は、社会科学における研究の方法論（methodology）を解説するものである。ただし、純粋な理論研究や哲学的考察ではなく、現実に存在する事象や人々の調査研究など経験的研究（empirical research）に焦点を当てている。

まず研究を進める予備作業として、研究対象である「事象」（出来事や現象）の位置付けやその捉え方に関する基本的な立場を定める必要性が強調されている。前者は通常、「存在論」（ontology）や「認識論」（epistemology）と呼ばれている。研究者は自分や他者が立脚する存在論や認識論に関する立場の違いを把握して、多様な理論を整理し、研究上の論理的な一貫性を保つ必要がある。自らの存在論や認識論の立場とは論理的に整合しない手法を使った無意味な研究に陥ってしまう危険性がある。

実際に研究の遂行に際して、「リサーチ・デザイン」と「手法」について、本書では厳格に区別されている。リサーチデザインとは、研究上の問いに対する答えを導き出すために、複数の手法を方向付けて得られた知見を一般化する道筋を示し、研究の枠組みを論理的に構築するものである。優れたリサーチデザインは、研究対象を説明する説得力や理解力を高める内的妥当性（再現可能性）や、研究から得られた知見を一般化できる外的妥当性（一般化可能性）を高め、学術的に価値あるものにしていく。

第Ⅱ部「社会科学のリサーチ・デザイン」では、事例研究、実験、縦断的研究・横断的研究などが代表的なリサーチデザインとして紹介されている。第2章の「事例研究」では「事例の選び方」が鍵を握り、第3章の「実験」では「無作為割り当て」が大事になり、理論的一般化や自然的一般化をめざしていく。また第4章の「横断的研究・縦断的研究」（サーベイ）では、標本抽出の考え方が研究で得られた知見の統計的一般化を左右する。

第Ⅲ部「社会科学の手法」では、研究の遂行に向けて研究データの分析に向けたテクニックが解説され、方法論やリサーチ・デザインに適切な手法の使い方が説明されている。「インタビュー調査」（第5章）、「エスノグラフィ／参与観察」（第6章）、「調査票調査」（第7章）や「言説分析」（第8章）、などが紹介されている。ここで取り上げられるデータ分析のテクニックが網羅的に説明されるわけではない。あくまでも、方法論に応じた「リサーチ・デザイン」と「手法」を相互に論理的に関連づけるものであり、研究の遂行に向けた理論的な指針を与えるものである。各手法の展開に向けては章末の「読書案内」を利用することで、一段と掘り下げた学習ができるように配慮されている。

最後に、第Ⅳ部「社会科学のルール」では、「研究倫理と参照の方法を」（第9章）が述べられている。研究倫理の基本的な考え方について説明し、具体的な引用方法を紹介するなど、日常的に活用できるハンドブックになっている。

本書は研究方法論の全体像を理解したい人物には大いに活用されるだろう。多様化した調査手法と首尾一貫した研究へのアプローチが整理されている良書と思われる。研究に関心のある実務家向けには是非とも薦めたい。

5. 住所、勤務先、電話番号、電子メールアドレス等の変更連絡のお願い

ご自宅住所、勤務先、電話や携帯番号、電子メールアドレスなどが変更になった方は、学会ホームページの入会の申込みより「登録内容変更届」を開いて必要事項をご入力の上学会事務局あて、ご一報くださるようお願い致します。

6. 「JBMA Newsletter」への寄稿のお願い

会員の皆様に、「JBMA Newsletter」への随想や書評などの寄稿をお願いいたします。

内容：随想や書評など（テーマは自由）

字数：半頁相当（約 1000 字）

期限：次号「JBMA Newsletter №.34」の原稿は、2018（平成 30）年 1 月 31 日（水）までに事務局へメール（添付書類）で送信してください。

以 上

《第8回西日本地区研究会 参加申込み》

参加のお申し込みは、学会本部事務局宛に下記の FAX 用紙、又はお電話、メールにて
11月28日(火)までにお願ひします。参加費は下記銀行口座へお振り込みください。
なお、当日のお申し込み、現金払いも可能です。

・学会事務局電話：03-3261-1145 FAX 03-3261-3315

メールアドレス：honbu09@jima.org

・銀行口座：三菱東京UFJ銀行 市ヶ谷支店

普通口座：0046235 名義人：一般社団法人 日本経営管理学会

_____このまま FAX 願ひます_____

(一社) 日本経営管理学会「第8回西日本地区研究会」に 参加 不参加 です。
「情報交換会」に 参加 不参加 です。
(どちらかを○で囲んでください)

ご氏名：_____

ご住所：_____

お電話・FAX：_____

メールアドレス：_____

一般社団法人 日本経営管理学会
学会事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-5 市ヶ谷法曹ビル607号
(社) 日本経営管理協会内 E-mail：honbu09@jima.org
TEL. 03-3261-1145 FAX. 03-3261-3315